

Gewandhauschor Osaka

大阪ゲヴァントハウス合唱団

第28回 定期演奏会

～バロックの巨匠たち～

2022年7月3日(日)

14:00 開演 (13:00 開場)

 Izumi Hall

住友生命いずみホール

ごあいさつ

本日は、大阪ゲヴァントハウス合唱団第28回定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。

世界的なパンデミックにより、延期あるいは中止に追い込まれる音楽会が多い中、昨年の第27回に続き、本年も定期演奏会を開催できる運びとなりました。感染予防対策を徹底し、会食などは控えながら練習に励んできた団員一同の音楽への情熱の結晶であり、またご来場いただいた皆様方のご支援、ご期待の賜物と熱く御礼申し上げます。

1982年に創設以来、オラトリオ、レクイエムなど宗教音楽の大阪ゲヴァントハウス合唱団という基本路線を継承しながら、海外遠征を含む新機軸も織り交ぜつつ頑張ってきました。今後も皆様のご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

本日の演奏会では、バロック音楽というジャンルをとりあげました。バロック音楽とは音楽史上、ルネサンス時代と古典派音楽時代の間である、16世紀末から18世紀中ごろまでの音楽とされています。しかし、そう呼ぶようになったのは20世紀に入ってからで、その特徴を一言では表現できないほど多彩な音楽が出現したためと言われています。強いて表現するならば、ルネサンス音楽が理論や調和を重視した均整の取れた静的な音楽であるのに比較して、バロック音楽は、人間の感情表現において自由、奇抜、劇的で動的な音楽であると特徴づけられたりしています。

常任指揮者萩原寛明先生の丁寧かつ厳しいご指導の下、素晴らしいソリストの方々と大阪モーツァルトアンサンブルをお迎えして共演させていただきます。

バロック時代の巨匠としてそれぞれ、協奏曲の父、音楽の母、音楽の父とも呼ばれているヴィヴァルディ、ヘンデル、バッハという大作曲家の合唱音楽作品の醍醐味をお楽しみいただければ幸いです。

大阪ゲヴァントハウス合唱団

団長 村上 孝三



2021年6月9日 第27回定期演奏会

第1ステージ

ヴィヴァルディ／グローリア

A.Vivaldi: Gloria, RV 589

第2ステージ

ヘンデル／ディクシット・ドミヌス

G.F.Händel: Dixit Dominus, HWV 232

《 休 憩 》

第3ステージ

バッハ／マニフィカト

J.S.Bach: Magnificat, BWV 243

指 揮	萩原 寛明
ソプラノⅠ	丸山 晃子
ソプラノⅡ	外山 有香
アルト	杉林 貴子
テノール	坂東 達也
バ ス	増本 隆

管弦楽 大阪モーツァルトアンサンブル

合 唱 大阪ゲヴァントハウス合唱団

出演者プロフィール



萩原 寛明 Hagiwara Hiroaki

京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了、ウィーン国立音楽大学卒業。声楽をヴァルター・ベリー、ヒルデ・ツァデクの各氏に師事。またウィーンでは、アーノルト・シェーンベルク合唱団に所属し、ヨーロッパ各地での演奏会や録音等に参加し合唱への造詣を深めた。帰国後は関西二期会に所属し、オペラの主要キャストや宗教曲、第九等のソリストとして多数出演するとともに、合唱の分野でも精力的に活動している。

現在、関西二期会、日本シューベルト協会、西宮音楽協会各会員。神戸女学院大学、京都教育大学各講師。混声合唱団Xsing、大阪男声合唱団、混声合唱団エヴァグリーン各指揮者。河内長野ラブラリーホール合唱団指導者。大阪大学男声合唱団ボイストレーナー。2017年10月より大阪ゲヴァントハウス合唱団常任指揮者。



丸山 晃子 Maruyama Akiko

京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業。音楽学部賞、京都音楽協会賞を受賞。同大学院音楽研究科修了。宗教曲のソリストを多く務めている。また合唱、声楽アンサンブルの経験も多い。現在、企画グループ One and Only メンバー、神戸市混声合唱団団員。



外山 有香 Toyama Yuka

相愛大学音楽学部声楽学科卒業。同大学卒業演奏会、奈良県新人演奏会等に出演。これまでに竹田佳世、稲垣孝子、故ハリーナ・スウォニツカの各氏に師事。2017年から大阪ゲヴァントハウス合唱団団員。



杉林 貴子 Sugibayashi Takako

大阪信愛女学院短期大学初等教育学科卒業。声楽を永島陽子、藤原治道、KSオリヴェイラ・ミリャコビッチ、KSビルギット・シュタインベルガー各氏に師事。ベートーヴェン「第九」、モーツァルト「戴冠ミサ」、メンデルスゾーン「パウルス」など主に宗教曲のアルトソロを務めるほか後進の指導にも力をいれている。大阪ゲヴァントハウス合唱団団員。



坂東 達也 Bando Tatsuya

東京藝術大学卒業、同大学院修了。これまで金丸七郎、菅英三子、市原多朗、竹本節子の各氏に師事。MusikEngel合唱団、バッハコレギウムジャパン、アンサンブルフロット、タローシンガーズ各メンバー。神戸クルーザーコンチェルト専属アーティスト。



増本 隆 Masumoto Takashi

大阪芸術大学大学院修士課程修了。第24回京都芸術祭音楽部門毎日新聞社賞受賞。関西を中心に様々なオペラに出演。また、第九やメサイアなどのソリストを務める。故松本幸三、三原剛、松本薫平各氏に師事。関西生活音楽事務局、シアームュージック各講師。

大阪モーツァルトアンサンブル Osaka Mozart Ensemble

1984年、大阪大学大学院生を中心に発足。以後、京阪神の各大学オーケストラOBを結集し、年間4～5回の演奏活動を続けている。指揮者を置かずに自発的なアンサンブルの実現を目指す。演奏会では主にモーツァルトの作品を取り上げ、

最新の研究成果に基づいて編纂された原典版を使用し、当時の一般的な編成で演奏している。2004年、指揮者なしでのモーツァルトの交響曲全曲演奏を20年かけて完結した。



(※は客演)

<i>Violin I</i>	大西 正人 野村 ひかり	田邊 明子 塩澤 まり子	筒泉 直樹	横小路美貴子
<i>Violin II</i>	濱田 利正 清水 愛結	藤井 聡子 塩田 真弓	久保 聡一	清水 雅代
<i>Viola</i>	本間 穂高 本間 理恵	能勢 徹	河合 士郎	堀井 博子
<i>Cello</i>	池村 佳子※	加納 隆	永野 泰子	
<i>Contrabass</i>	塩田 英治			
<i>Flute</i>	門司 真美	三原 萌愛		
<i>Oboe /Oboe d'amore</i>	福田 由美※	小林 靖之		
<i>Bassoon</i>	尾家 祥介			
<i>Trumpet</i>	中島 真※	山崎 雅夫	中嶋 香織	
<i>Timpani</i>	船戸 哲也			
<i>Organ</i>	追中 宏美※			

大阪ゲヴァントハウス合唱団 Gewandhauschor Osaka

大阪ゲヴァントハウス合唱団は1982年に指揮者故林達次を音楽監督として創設された。一足早く1977年に発足した京都ゲヴァントハウス合唱団と合同で「林達次オラトリオシリーズ」演奏会や海外遠征を続ける一方、単独の定期演奏会を開催してきた。2003年12月に創設者の林達次が他界した後は、2005年に波多野均を常任指揮者に迎え、国内外でより多彩な演奏活動を展開、ドイツのカメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとは2002年から2015年まで計9回の合同演奏を関西とベルリンで開催してきた。

2017年10月に萩原寛明を常任指揮者に招き、以後第25回から第27回までの定期演奏会では、バッハ国際コンクールで日本人初の第一位に輝いた富田一樹のパイプオルガン伴奏により、メンデルスゾーン「エリア」(抜粋)、ラインベルガー「レクイエム ニ短調」、木下牧子「光はここに」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」を演奏し、他のアカペラ曲等も含めて好評を得てきた。第28回定期演奏会は久しぶりのオーケストラとの協演となる。

(※は賛助出演)

<i>Soprano I</i>	丸山 晃子※ 寺本 浩子	生駒 三樹子	伊藤 京	鋤納 美佐子
<i>Soprano II</i>	岡村 郁子 藤村 絵津子	外山 有香	中務 七緒	仁田 優子
<i>Alto</i>	安橋 佳子 中村 まち子	斎藤 久美子 南出 真美	佐野 恵子 山田 孝子	杉林 貴子
<i>Tenor</i>	坂東 達也※ 山本 健司	栗山 和郎	辻 光宏	原田 慎太郎
<i>Bass</i>	増本 隆※ 百々 隆	荒木 正雄 中田 誠	内野 博之 前川 洽治	澤瀉 久方 村上 孝三

ヴィヴァルディ／グローリア A. Vivaldi: Gloria, RV 589



作曲者のアントニオ・ヴィヴァルディは、1678年3月4日にヴェネチアで生まれました。父親は、サン・マルコ寺院のヴァイオリニストを務めるなど有能で、ヴィヴァルディもその薫陶を受けたものと思われます。家系的に髪の毛が赤かったようで、父親ともども「赤毛の司祭」と呼ばれています。

15歳になった1693年に僧籍に入って聖職者になるための教育を受け、1703年に司祭に叙任されます。司祭になってからも、ピエタ音楽院という、孤児や親に養育能力がない少女を育てる孤児院での活動が中心で、最初はmaestro di violino、後にはmaestro de' concertiという地位で、音楽院の中心的な立場で活躍しました。

このような宗教関係の組織で活動する一方、協奏曲やオペラ等いわゆる世俗的な作品を数多く作曲しました。1713年頃までは協奏曲が中心で、次の10年間はオペラの作曲が増え、最後はイタリア各地を飛び回りました。最晩年はウィーンで過ごしオペラも作曲しましたが、社会情勢に恵まれず演奏されることなく失意のうちに1741年7月28日に死去しました。

ヴィヴァルディの協奏曲は、生前からイタリアのみならずヨーロッパ各地で出版されており、バッハもヴァイオリン協奏曲の何曲かをチェンバロ協奏曲などに編曲しています。

ヴィヴァルディは、協奏曲の形式を確立したことで有名ですが、加えて、大胆な和音の使い方など、後の古典派に繋がって行く下地を築いたという評価もされています。ただし、演奏される機会が多いのは器楽曲で、声楽曲はまだ研究途上というところです。

本日演奏します「グローリア」は、ヴィヴァルディの死後永らく忘れられていて、1930年代の終わりごろにトリノの国立博物館所蔵の筆写譜の中から発見されました。1939年9月にシエナのヴィヴァルディ・フェスティバルで演奏されて世に知られ、今日ではヴィヴァルディの声楽曲のなかでは最もよく演奏される曲になっています。

作曲動機は全く分かっておらず、30分を要する大作であることから、通作ミサの一部あるいは通作ミサを意図して作曲したとは考えにくく、ヴィヴァルディの個人的な信仰心の発露と見方が一般的です。残された楽譜から1710年代には既に演奏されていたようですが、作曲時期も正確には判りません。1710年代は、ピエタ音楽院が活動の中心ですので現在の混声合唱での演奏はあり得ず、移調するなり、男声部を楽器に置き換えるなりして演奏したのではないかとの見方もあります。

用いられている歌詞はカトリック教会のミサ通常文の「グローリア」そのまま、ヴィヴァルディは、それを12の部分に分け、演奏の編成、調性、様式、テンポ等を使い分けて十分な音楽的效果を発揮しています。このように区切った作曲様式をナポリ風カンタータ様式のミサと呼び、バロック時代以降多くの作曲家が取り入れました。

カトリック教会におけるミサは、キリストの最後の晩餐の再現で、その様式は5～6世紀頃には確立されました。ミサの中で唱えられる言葉は、毎回のミサに共通する通常文（キリエ、グローリア、クレド、サンクトゥスとベネディクトゥス、アニュス・デイ）と、教会暦上のそれぞれの日に固有の固有文（入祭唱、続唱、奉献唱、昇階唱等）とに分かれています。

Gloria グローリア 対訳

1. 合唱		二長調、4/4 拍子
Gloria in excelsis Deo.	いと高きところでは神に栄光がありますように。	
2. 合唱		口短調、3/4 拍子
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.	地上では平和が 善意の人びとにありますように。	
3. ソプラノ 2重唱		ト長調、2/4 拍子
Laudamus te. Beneditimus te. Adoramus te. Glorificamus te.	私たちはあなたをたたえ、 あなたを祝福し、 あなたを拝み、 あなたをあがめます。	
4. 合唱		ホ短調 4/4 拍子
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.	私たちはあなたに感謝を捧げます、 そのおおいなる栄光のゆえに。	
5. ソプラノ独唱		ハ長調、12/8 拍子
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.	神なる主、天の王よ、 全能の父なる神よ。	
6. 合唱		ヘ長調、3/4 拍子
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.	主なるひとり子 イエス・キリストよ。	
7. アルト独唱と合唱		ニ短調 4/4 拍子
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris. Qui tollis peccata mundi miserere nobis.	神なる主、 神の子羊、 御父の御子よ。 世の罪を取り除いてくださる方よ、 私たちを憐れんでください。	
8. 合唱		ホ短調、4/4 拍子・3/2 拍子
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.	世の罪を取り除いてくださる方よ、 私たちの願いを聞き入れてください。	
9. アルト独唱		口短調 3/8 拍子
Qui sedes ad dextram Patris, miserere nobis.	御父の右に座っておられる方よ、 私たちを憐れんでください。	
10. 合唱		二長調、4/4 拍子
Quoniam tu solus Sanctus, Tu solus Dominus, Tu solus Altissimus, Jesu Christe.	なぜなら あなただけが聖なる方であり、 あなただけが主であり、 あなただけが至高なる方だからです。 イエス・キリストよ。	
11. 合唱		二長調、4/2 拍子
Cum Santo Spiritu, in gloria Dei Patris. Amen.	聖霊とともに、 父なる神の栄光のうちに。 アーメン。	

ヘンデル/ディクシット・ドミヌス G.F.Händel: Dixit Dominus, HWV 232

作曲者のゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデルは、ヨハン・セバスチアン・バッハと同じ 1685 年の生まれで、2 月 23 日にライプツィヒの北西約 25 km の街、ハレで生まれました。

家系は音楽との関係はなく、ヘンデルは父の反対を押し切って教会のオルガニストから指導を受け、音楽家の道を歩み始めます。

ハンブルグのオペラハウスでのヴァイオリン奏者、通奏低音奏者としての活動を経て、1706 年に当時最先端を行っていたイタリアに移ります。そこで、優れた鍵盤楽器奏者として歓迎されるとともに、イタリア・オペ

ラを作曲し喝さいを受けました。

イタリア滞在は短期間で 1710 年にはロンドンに渡り、1712 年からはロンドンに定住してイタリア・オペラの作曲家・興行主として成功します。1724 年にはイギリスに帰化し、名前も英語式に変えました。

その後もオペラを中心に活躍しますが、興行成績が芳しくなくなったことから、1740 年頃からはオラトリオ作曲家に転向します。それ以降、オラトリオ作曲家として、時には宮廷の祝祭音楽家として活躍しました。1751 年に視力が急に減退し、バッハと同じ医者の手術を受けますが効果はなく視力は回復しませんでした。しばらくは旧作の再演などの活動を続けましたが 1759 年 4 月 14 日に死去し、ウェストミンスター寺院に葬られました。

本日演奏します「ディクシット・ドミヌス」は、旧約聖書に含まれている詩編 110 編（ヘブライ語辞書では 109 編）です。ヘンデルは詩編を 8 つに区切り、最後に礼拝の様式に従って小栄唱を加えています。

ヘンデルがこの曲を作曲した時期は正確には判っていませんが、イタリア到着後、あまり間のない 1707 年 4 月には完成したようです。初演はその年の復活祭という見方が有力です。

イタリアに到着してから間もない時期にこの作品を完成させたことで、短期間にイタリア音楽の特徴を習得したと評価される一方、ドイツの伝統的な対位法の要素もしっかりと踏まえて、イタリア的な明るさと両者が相まって、多彩な起伏に富む作品になったと評価されています。ヘンデル自身は、イギリスにわたってから、「ディクシット・ドミヌス」の音楽を他の曲に流用しており、彼にとっても納得のいく自信作だったと言えます。なお、第 1 楽章と終楽章では、ヘンデルの作品で唯一グレゴリオ聖歌が定旋律として用いられています。

カトリック教会の修道院や教会では、ユダヤ教からの伝統を引き継いで、毎日、聖務日課と呼ばれる 8 回の礼拝が行われ、礼拝毎に数編の詩編が読まれました。1 週間で 150 編の詩編の全てが読まれるように曜日毎に読まれる詩編が決まっています。ユダヤ教の礼拝は古代から音楽的で、多くの詩編は音楽的に歌われ、時には器楽も伴ったと言われています。

聖務日課では日没の頃に行われる晩課が最も重要で、その晩課の最初に歌われるのが「ディクシット・ドミヌス」です。この詩編は、元々はイスラエル王国の 2 代目の王であったダヴィデの戴冠式（紀元前 1004 年頃）で歌われたと言われています。冒頭で「神はわが主にいわれた」とあるように、神が理想的な王を祝福する内容になっており、ユダヤ教の礼拝でも歌い続けられてきました。キリスト教では、イエスによって初めて理想的な王、すなわち油を注がれたもの＝メシアが到来すると理解されるようになりました。このために、この詩編が礼拝で重要な位置を占めており、多くの作曲家がこの詩編に作曲しています。

1. 独唱つき合唱	ト短調、4/4 拍子
Dixit Dominus Domine meo: Sede a dextris meis. Donec ponam inimicos tuos, scabellum pedum tuorum.	主は、私の主にいわれた 「私の右に座りなさい。 私があなたの敵を あなたの足台とするときまで。」
2. アルト独唱	変口長調、4/4 拍子
Virgam virtutis tuae emittet Dominus ex Sion: dominare in medio inimicorum tuorum.	あなたの力強い杖を 主はシオンから伸ばされます。 「敵のただ中で支配しなさい。」
3. ソプラノ独唱	ハ短調、3/4 拍子
Tecum principium in die virtutis tuae in splendoribus sanctorum: ex utero ante luciferum genui te.	あなたの民は進んで身を献げるでしょう あなたの出陣の日に。 聖なる輝きを帯びて。 曙の胎の中から若さの露が降りるでしょう。
4. 合唱	ト短調 4/4→3/4 拍子
Juravit Dominus, et non paenitebit eum:	主は誓われ、御心は変えられません。
5. 合唱	変口長調、4/4 拍子
Tu es sacerdos in aeternum secundum ordinem Malchisedech.	「あなたは、永遠に祭司です、 メルキセデクに連なる。」
6. 独唱つき合唱	二短調、3/4 拍子
Dominus a dextris tuis, confregit in die irae suae reges.	主は、あなたの右に立ち、 怒りの日に王たちを粉碎されるでしょう。
7. 合唱	ヘ長調 4/4 拍子
Judicabit in nationibus, implebit ruinas: conquassabit capita in terra multorum.	主は国々を裁き廃墟でいっぱいにし、 多くの土地で首領たちを揺り動かされます。
8. ソプラノ 2 重唱と男声合唱	ハ短調、4/4 拍子
De torrente in via bibet: Propterea exaltabit caput.	主は道ばたの溪流から水を飲み、 それによってこゝべを上げられるでしょう。
(小栄唱)	
9. 合唱	ト短調 4/4 拍子
Gloria Patri et Folio et Spiritui Sancto. Sicut erat in principio, et nunc, et semper, et in saecula saeculorum. Amen.	御父と御子と聖霊に栄光がありますように。 初めにそうであったように、いまも、いつも いつの世までも限りなく。 アーメン

バッハ／マニフィカト J.S.Bach: Magnificat, BWV 243



作曲者のヨハン・セバスチャン・バッハは、1685年3月21日、ヘンデルより1カ月ほど遅れてドイツ中部の今はテューリンゲン州に属するアイゼナハで生まれました。バッハの家系は音楽家の家系で、父親もアイゼナハの街音楽師でしたが、バッハが9歳の時に母親が、10歳の時に父親が亡くなり、14歳年上の長兄に引き取られ、鍵盤楽器に手を染めます。

15歳の時にリューネブルクでオルガンを学んだ後、18歳の時のアルンシュタットを皮切りに、ミュールハウゼン、ヴァイマルのオルガニストとして、1717年にケーテンに移って宮廷楽団の楽長として活動します。

その後、ライプツィヒ・聖トマス教会のカントールが空席となり、本命のテレマンが辞退したため、1723年にその地位につきました。

就任直後は、毎週日曜日の礼拝に用いるカンタータを新たに作曲して生徒たちに演奏させるという意欲的な活動を行いました。この時期には数多くの教会カンタータや「ヨハネ受難曲」、「マタイ受難曲」が作曲され、本日演奏します「マニフィカト」もこの時期の作品です。その後、1730年代中頃からは、市の当局者との軋轢が生じ、作曲される数も減って既存の曲の改作などで対応することが多くなります。この時期に作曲された「クリスマス・オラトリオ」では、かなりの部分の音楽は既存のカンタータが転用されています。ドレスデン宮廷への働きかけなども行いますが、結局、カントールの地位を離れることはなく、晩年には視力の衰えにも悩まされながら、作曲活動の総決算をするかのような作品、「フーガの技法」、「口短調ミサ曲」を残して1750年7月28日に亡くなりました。

「マニフィカト」は、受胎告知を受けたマリアが親戚のエリザベトを訪問し、同様に聖霊により身ごもっていたエリザベトから、「あなたは祝福された女性」と教えられて、神を讃えて発した言葉とされています。ルカ福音書のみ書かれている言葉です。

プロテスタントの礼拝はカトリックのような聖務日課とは異なりますが、やはり定期的に礼拝が行われ、「マニフィカト」が歌われるのは午後一番に行われる晩祷です。宗教改革のころから昼過ぎにおこなわれるようになりましたが、名前は晩祷のままです。母国語による讚美歌と教会暦に即した説教を中心とするプロテスタントの礼拝でも、マリアが神を讃えた「マニフィカト」がラテン語で歌われます。

バッハは、ルカ福音書のマリアの言葉を11の部分に区切り、最後に礼拝の様式に従って小栄唱を加えた12曲構成とし、合唱、独唱、重唱を聖書の内容に即して効果的に使い分けて作曲しています。カンタータと比較すると、各曲が比較的短いこと、ダ・カーポ・アリアがないことなどがあげられます。このことは、カンタータは、各主日に即した聖書の内容を音楽で展開していくのに対し、「マニフィカト」の場合は、晩祷の締めくくりに、マリアの言葉を借りて神を賛美するという、礼拝上の役割の違いによるものとも考えられます。

本曲の作曲経緯は、最近の研究では1723年6月のマリアのエリザベト訪問の祝日のために変ホ長調で作曲され、同年のクリスマスに向けて4曲が追加されて今に伝わる第1稿となり、10年ほど後に追加の曲を削除して、二長調に改作されて本日演奏します第2稿が完成したと考えられています。この改作により、多くの機会に演奏が可能となり、音楽的には、主調の変更によりトランペットが一層華やかに活躍できるようになりましたし、フルート・トラヴェルソの追加等で和声が豊かになったともいわれています。

1. 合唱		二長調、3/4 拍子
Magnificat anima mea Dominum.	私の魂は主をあがめます。	
2. ソプラノⅡ独唱		二長調、3/8 拍子
Et exsultavit spiritus meus in Deo salutari meo.	私の霊は喜びたたえます わが救い主である神を。	
3. ソプラノⅠ独唱		口短調、4/4 拍子
Quia respexit humilitatem ancillae suae: ecce enim ex hoc beatam me dicent	この卑しい仕え女に目を留めて下さった からです。 今から後、私を幸いな者というでしょう	
4. 合唱		嬰へ短調 4/4 拍子
omnes generationes.	いつの時代の人たちも。	
5. バス独唱		イ長調、4/4 拍子
Quia fecit mihi magna qui potens est: et sanctum nomen ejus,	力ある方が大いなることをしてくださった からです。 その御名は聖であり、	
6. アルト・テノール2重唱		ホ短調、12/8 拍子
Et misericordia a progenie in progenies timentibus eum.	その慈しみは世々限りなく及びます 主を畏れる者たちに。	
7. 合唱		ト長調 4/4 拍子
Fecit potentiam in brachio suo, dispersit superbos mente cordis sui,	主は御腕で力を振るい 思い上がる者を追い散らし、	
8. テノール独唱		嬰へ短調、3/4 拍子
Deposuit potentes de sede, et exaltavit humiles,	権力ある者をその座から引き降ろし 低い者を高く上げ、	
9. アルト独唱		ホ長調 4/4 拍子
Esurientes implevit bonis, et divites dimisit inanes,	飢えた人をよい物で満たし 富める者を手ぶらで追い払い、	
10. 女声3重唱		口短調、3/4 拍子
Suscepit Israel puerum suum, Recordatus misericordiae suae.	その僕イスラエルを助けて下さいました、 慈しみを忘れずに。	
11. 合唱		二長調、2/2 拍子
Sicut locutus est ad patres nostros, Abraham et semini ejus in saecula.	私たちの先祖に語られたとおり アブラハムとその子孫に対しとこしえに。	
(小栄唱)		
12. 合唱		イ長調 4/4 拍子
Gloria Patri, et Filio, et Spiritui Sancto. Sicut erat in principio, et nunc, et semper, et in saecula saeculorum. Amen.	御父と御子と聖霊に栄光がありますように。 初めにそうであったように、いまも、いつも、 いつの世までも限りなく。 アーメン	

新入団員大募集！

合唱が好きで、年間を通じて練習に参加いただける方であれば、どなたでも入団いただけます。団員募集は常に行っていますが、次回の演奏会に向けて皆で新しい曲の練習に取り組む今が入団のチャンスです。まずはお気軽に見学にお越しください。

大阪ゲヴァントハウス合唱団 第29回定期演奏会

パレストリーナ：ミサ・プレヴィス
バッハ：モテット第3番「イエス、わが喜び」
フォーレ：レクイエム（オルガン 富田一樹）

2023年5月28日（日） 住友生命いずみホール

定期練習：毎週木曜日 18:30~21:00

練習会場：大阪府中央区 大阪産業創造館 15階

入団希望・お問合せはメールでお願いします。

info@osakagewandhauschor.org